



所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2019年8月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-t.jimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。とこらぼでは5回目となる小豆川先生の講演会を開催しました。先生の言葉でいつも心に残るのは、“では、あなたはどのように考えますか？”
どんなに知識を学んでも、それを踏まえて自分はどうするのか？どうしたいのか？その判断基準となるようなデータを提供し続けていきます。今後もお力添え、よろしく願いいたします。



放射線測定士のつぶやき

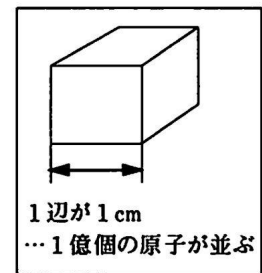
私たちの身の回りには、私たちの体も含めて、すべて莫大な数の原子の集合体です。原子の大きさはとても小さくて、1億個の原子をまっすぐに並べて1cmになります。

1cm×1cm×1cm(1cm³)の中には

1 0000 0000 個×1 0000 0000 個×1 0000 0000 個

=1 0000 0000 0000 0000 0000 0000 個=10²⁴ 個

の原子が詰まっています。



放射性物質も原子の集まりです。137Cs(セシウム)が1cm³あるということは、莫大な数のCs原子があるということです。そして、多量の放射線を放出しています。

一方で、137Csが1円硬貨一つ分あったら、「人は近づくことが出来ない」くらい危険だと言われます。原子の大きさが小さくても、137Csは環境や私たちの体に大きな影響を与えるのです。

小豆川先生によると、2011年の事故当時に環境中に放出された137Csの量は「両手の平に乗るくらい」ということです。どれだけ多くのCs原子が環境中に撒き散らされたのか、想像していただけるでしょうか？

事故から8年以上たった現在も、放射性物質は私たちの生活に多大な影響を及ぼし続けています。莫大な数が散らばり、一つ一つが影響を与えるにも関わらず、小さすぎて目に見えないというのが、放射性物質の難しいところです。目には見えないCsが砂埃などについて、風の強い日は大気中に巻き上がっています。

見えないものを、なんとなく怖いで終わらせず、測定することで傾向をつかみ、具体的な対応策を考えていくために、とこらぼでは測定を続けています。

※小豆川先生は、東京大学助教。2011年より福島第一原発から放出された放射線物質の測定を始め、放射性物質の動きを定量的に測定して分析をしています。「とこらぼ」でも毎年講演会をお願いしています。分かりやすいお話が好評です。

『小学生からの放射線講座』に参加して

松村誠さん寄稿（元中学校教師・測定・イベントのお手伝いをしてくださっています）



去る5月25日(土)に、小豆川勝見先生の『小学生からの放射線講座』に参加しました。過去にも一度だけ先生のお話を聞いたことはあったのですが、今回は表題にも『小学生からの…』とあったせいか、参加者は、多くが大人でしたが、前回に比べると小学生の参加が少し増えているように思いました(中学生も一名参加)。

もっとも、放射線のことについては、小学生のみならず、大人でも仕事などでそのことに関わっている人や、自ら興味を持って学んでいる人でないとただ単に「危険そう」とか「怖そう」で終わってしまったり、逆に「そんなに騒ぐようなことなの」と軽く済ませてしまったり、本当の意味を理解しない人が少なくないのが現状ではないでしょうか。

したがって、子ども、大人に関係なく、原発事故の後(その前からも、核実験等で環境中に放出された放射性物質は少なくないが)、確実に私たちの身の回りにある、放射性物質の影響を正しく知る必要があります。

その点、先生は専門的なことを極めてわかりやすく解説していました。これだけの話を聞ける機会なので、もっと多くの人々の参加に期待したいと思います。

ただ一つ気になったことは、このような、講演会や映画など他の催しでもいえることなのですが、小学生にくらべると、中学生や高校生の姿が少ないことです。中高生は部活動等(休日の部活動については、社会問題にもなっており、学校だけでなく、様々な場面での学ぶ機会を奪っていることにもつながります。)があるのかも知れませんが、この年代の参加を増やしていく工夫が必要ではないでしょうか？

講演会の後、先生を囲んでの雑談の中で、研究費が極めて少ないことをうかがった時には、正直驚きました。先生の所属する東京大学は、日本では一番研究に関してはそれでも恵まれていること。また、ノーベル賞をもらうような有名な先生でも研究費を捻出するのに大変な苦勞をされているとのこと。諸外国にくらべると資金面で大きく遅れをとっていることが、研究成果である論文の件数や内容にも現れて来つつあるそうです。

はやぶさ2などのニュースでは、日本は科学にコストをかけているように思っていたのですが、「本当に日本の科学の未来は大丈夫なの？」という逆の思いが浮かび上がりました。こんなことも、放射線のこと同様に、もっと世間に広めていく必要があるのではないのでしょうか。

困難な状況の中でも、ひたすら放射線の計測を行い、それを世の中に伝えてくれている先生の活動に改めて感謝したいと思います。



「とらぼ連続上映会」好評のうち終了

去る4月27日、島田恵監督映画「チャルカ～未来を紡ぐ糸車～」・岩崎雅典監督映画「福島 生きものの記録」シリーズ4～生命～と「福島 生きものの記録」シリーズ5～追跡～の3本の上映を行いました。

原発事故で放出された放射性物質の影響はもう終わった事ではなく、まだ始まったばかり、さらに原発の再稼働も進んでいます。皆さんとこのことに関心を持ち続けられたらと再上映しました。

当日は「何度観てもいつも違う気づきがもらえるから」という常連さんを始めとして、何と「お母さんに勧められて」と友達も誘って来た頼もしい中学生たち、「自分の子どもに学んで欲しいので」とお子様連れの参加も含め充実した上映会となりました。

＜参加者の感想から＞

・「最終処分場が日本にはひとつも適する場所がない」やっぱりと思っていましたが、原子力を導入する時点で考えていればと……。文科省発行の原子力副読本が野洲市の教育委員会で使わないことに決めたとのこと。所沢でも使わないで正しい知識を子どもたちには伝えて欲しい。

・久世さんの生き方に感動しました。便利な世の中にならなくても幸福はあります。核のために10万年もかかるとは、未来の事を考えると恐ろしい感じがします。

・原発を動かすことで核廃棄物が出て、その核のゴミ処理は10万年～100万年かかり、「もんじゅ」も「六カ所再処理所」も目途が立っていないという事。日々の生活の中で改めて原発の影響を考えて行かねばならぬと思いました。反省を含めて!!

・核のゴミ処理に膨大な費用をかけて、何という無駄で経済合理化にもそぐわない。核発電推進者達は、経済活動というより巨額の利権集団と見た。

・原子力発電所事故の放射性物質にさらされた生物の生態系に、何が起きているのかの追跡調査に感銘を受け、真実追究の責任感を受け取りました。

公開測定の現場から

今回は、毎年微量に検出されているタケノコ(埼玉県産)について取り上げたいと思います。いつもは水煮(アク抜き処理)したものを測定していましたが、今年は生の状態でどうなのかも測定してみました。例のごとく長時間測定に耐えられるよう千切りし乾燥させて測定しました※。

結果は約 32Bq/kgでしたが 1/10 に乾燥したので 10 倍に濃縮されたと考えられます。

次に、この乾燥タケノコを水煮した後どうなるか測定してみる事にしました。その結果、検出下限値以下でした。

次に、この時に出た煮汁にセシウムが移行したのかを確認する事にしました。3リットルある煮汁のうち、測定に必要な1リットルを使用しました。結果は 1.16Bq/kgでしたが、実際は3リットルなので3倍あると考えられます。

このことから、煮汁にかなりのセシウムが移行したと言えます。タケノコを水煮処理することは、アク抜きだけでなくセシウム抜きにも有効と言えます。

このように、一つのタケノコを使って「生→水煮→煮汁」と3回も測定をしてしまいました。とらぼの測定もやっとオタクになりつつあります。

※生の状態で長時間測定すると食品が発酵膨張して液もれをおこし易くなります。液漏れによる測定器内部の汚染を防ぐために乾燥処理をしてから測定するようにしています。

【とらぼ利用者の声】

中山千賀子(所沢市在住)さんからの投稿をご紹介します。

本当のことを知る

2012年11月15日、東電の福島原発事故の原因と責任を問う第二次告訴13,262人の一人に加わり、福島地方検察庁に告訴状を提出するため、私は福島に行きました。途中、郡山で新幹線の扉が開いた時、持参していた線量計が大きく振れた時の体が強張るような恐怖を今も忘れません。

集合場所では、マスクの着用と妊婦の参加は控えるように注意がありましたが、福島市内では高校生たちがマスクもせず楽し気におしゃべりしている姿がありました。この時開かれた集会で、告訴人一同が出した声明文は次のように結ばれています。

『事故により引き裂かれた私たちが、再びつながり、力と尊厳を取り戻すこと。この国に生きるひとりひとりが大切にされず誰かの犠牲を強いる社会を変えること。これらを実現することで、子どもたちや若い人たち、未来世代の人たちへの責任を果たすこと。声を出せない人々や生き物たちと共に在りながら、決してバラバラにされず、つながりあうことを力とし、怯むことなくこの事故の責任を問い続けていきます。』

この日から、二度の不起訴を経て、旧東電幹部の3名は業務上過失致死傷罪で強制起訴されました。今年の3月12日まで37回の裁判が行われ、9月19日に判決を迎えます。強制起訴がなかったら闇に葬られていた事実が裁判によって明らかになりました。東電は津波の危険性を知っていたのに、膨大な出費を避けるため対策を先送りしていたのだということや、プラントを停止し対策を講じることになると原発の危険性を世間に公表してしまうことになるという本当のことを隠す体質が東電の中にあったことを知りました。

裁判では、3名の被告とも証拠のメールや文書を示されても、「見ていない・知らなかった・自分には責任が無い」と無罪を主張しています。本当のことは一つであるはずですが、立場や見る角度によって様々な本当が出現します。市民の視点で本当を追求し、発信し続けている「とらぼ」を私は応援し続けます。



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール：tokolabo2013@gmail.com 電話：080-6257-2306



とらぼメーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。

登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。